

令和6年度 研究推進計画

学 校 名 江田島市立切串小学校

学校長名 住 田 孝 徳

1 研究主題，研究内容・方法について

(1) 研究主題

自ら学ぶ児童の育成
～児童が主体的・協働的に学ぶ授業づくりを通して～

(2) 主題設定の理由

本校では、令和3年度からキャリア教育の視点を取り入れた教育活動を行ってきた。

児童の実態から、キャリア教育で育成したい4つの力【**見つめる力**（自己理解能力・自己管理能力）、**関わる力**（人間関係形成能力・社会形成能力）、**見通す力**（キャリアプランニング能力）、**やりぬく力**（課題対応能力）】のうち、見通す力と見つめる力の2つに絞り、授業改善等に取り組んできた。

その結果、第5学年広島県児童生徒学習意識等調査では、下記の通り、令和4年は県平均より低い結果となっていたが、令和5年は県平均を大きく上回ることができた。

【第5学年 広島県児童生徒学習意識等調査の結果】

関連する力	内 容	令和4年度		令和5年度	
		小：肯定的評価（県）	切串小	小：肯定的評価（県）	切串小
見通す力 (キャリアプランニング能力)	学校の授業の予習をする。	53.4	42.9	51.9	80.0
	課題を解決するために、進んで資料集めや取材をする。	60.9	28.6	60.3	80.0
	生活や学習の中で、これまで学習した内容や学習の進め方を使っている。	82.2	71.5	80.8	100
	自分に合った学習活動などを選ぶことができる。	70.2	42.9	71.5	100
見つめる力 (自己理解能力・自己管理能力)	振り返りをするときには、「どこまでわかったか」などを考える。	71.4	57.1	70.7	100
	めあてと対応したまとめや振り返りをする。	84.3	42.9	84.4	100

しかしながら、江田島市学力調査（東京書籍 標準学力調査）の結果においては、下記のように学年によって課題は異なるが、国語科と算数科において、思考力、判断力、表現力等に関する項目が、全国平均正答率より低い傾向にあった。

【江田島市学力調査（東京書籍 標準学力調査）の結果】

	国語（思考・判断・表現）			算数（思考・判断・表現）			理科（思考・判断・表現）		
	全国	校内	達成率	全国	校内	達成率	全国	校内	達成率
1年	68.7	81.0	118	71.4	84.7	119			
2年	75.7	85.7	113	58.0	58.0	100			
3年	61.1	60.0	98	50.3	51.4	102	54.4	55.3	102
4年	55.2	40.0	72	52.1	31.5	60	55.2	61.1	111
5年	66.6	66.7	100	43.6	31.2	72	65.1	72.4	111
6年	69.1	82.2	119	57.5	64.8	113	67.8	75.5	111

※【達成率】・・・校内平均正答率÷全国平均正答率

全国平均正答率の低い項目を分析すると、特に、「話し合いの内容を聞き取る」や「調べてわかったことを発表する」、「文章を書く」の3項目において、課題が大きく見られた。これらの課題を改善するためには、日頃の学習で意図的に活動を仕組む必要がある。また、これまでのキ

キャリア教育の取組や本校の状況（複式学級）、児童の実態からも、学習内容や学習方法を大きく見直し、子供主体の学習を進めることが求められる。これまでのキャリア教育の取組を生かし、児童が社会に出たとき、自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現してほしい。そのためにも今後は、キャリア教育で育成する力を学力向上のための土台として位置付け、自己実現に向けた学びを児童が選択・決定し修正しながら行うことで自己調整力を高め、学び方をも学ぶ学習経験を積み上げることを研究の中心にしたいと考える。

そこで、本年度は「令和の日本型学校教育の構築を目指して」中央教育審議会2021年1月答申で示された「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する単元内自由進度学習や、生活科や総合的な学習の時間において異学年集団による協働学習を取り入れ、児童が自分の学びを調整し、自分で自分の学びを創ることで学びの充実を図ることとする。児童が個々の理解度やペースに合った学習内容や学習方法を選択し、計画に沿って自分で学習を進めることにより、学ぶ意欲や取り組み方が大きく変容し、その結果、学力も向上するのではないかと考える。学び方を学ぶ経験を積み重ねることにより、児童は自分の学びづくりに向き合い、責任をもち、自律した学びに向けて歩み続けるのではないかと考える。

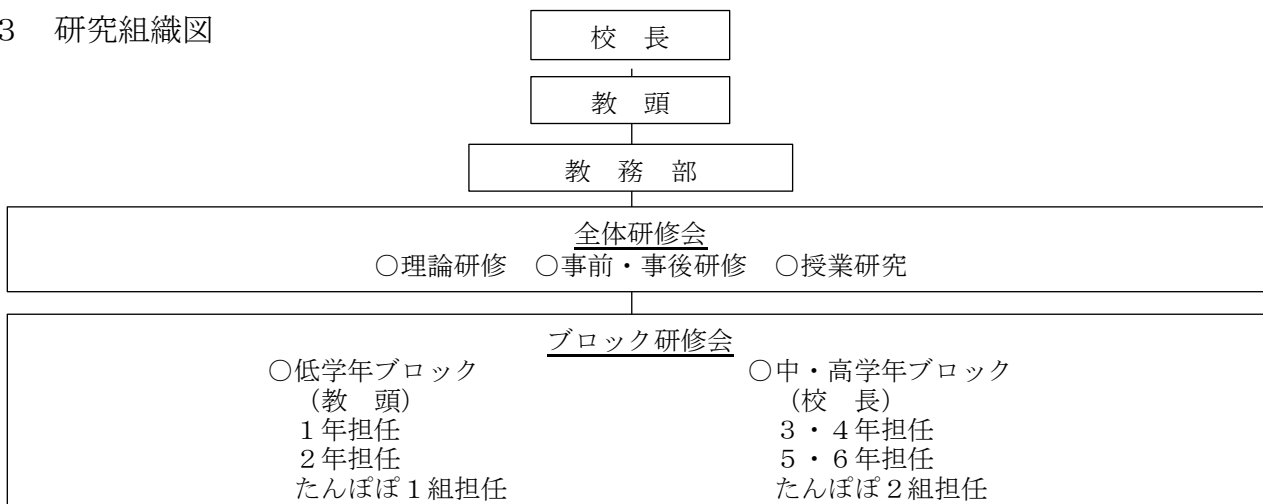
(3) 研究仮説

単元内自由進度学習や協働学習を取り入れ、児童が主体となる授業づくりや活動を支援することで、児童は選択・決定・調整をしながら、課題意識をもって学び続けることができるであろう。

2 研究内容・検証の指標及び検証計画

研究の視点	具体的な内容	検証の方法	検証の指標
①単元内自由進度学習 個別最適な学びの充実	<ul style="list-style-type: none"> 個に応じた学習課題、学習形態、学習方法等の選択 学習計画表を基に、児童が学習を進める学習の充実 	○児童アンケート	○児童アンケートにおいて肯定的解答80%以上を目指す。
②他者と協働的に学ぶ学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> 生活科や総合的な学習の時間における学習の充実 異学年集団における学び合い 自分の学びを発表する場の工夫 	○児童アンケート	○児童アンケートにおいて肯定的解答80%以上を目指す。
③思考力・判断力・表現力等の育成	<ul style="list-style-type: none"> 思考力、判断力、表現力等の育成を図る授業づくり 	○江田島市学力調査	<ul style="list-style-type: none"> ○全国平均との差が、昨年度より向上する。 ○「話す・聞く」「文章を書く」問題の正答率の向上

3 研究組織図



4 校内研修計画

月	研修形式	内 容	講師招聘
4	3 ○研修・交流	・研究主題・推進計画について ・研究の方向性、育成する力の共有化 ・年間指導計画に沿って見通しを立てる	
	19 ○研修	・単元内自由進度学習について ・個別最適な学びについて	
5		・児童アンケート実施（1回目）	
	7 ○研修	・生活科・総合的な学習の時間の学習の授業づくりについて	
6	4 ○ブロック研修 ○全体研修	・指導案検討（中学年）	
7	5 ○授業研究・協議会 理論研修	・授業研究（中学年）	住田裕子教授 市教委
	30 ○交流	・1学期の授業づくりについて ・児童の様子について	
8	28 ○ブロック研修 ○全体研修	・指導案検討（低学年、高学年） （たんぼぼ学級1組・2組）	
9		・授業参観・交流	
	27 ○授業研究・協議会 理論研修	・授業研究（たんぼぼ1組・2組）	江能分級 特別支援教育コ ーディネーター
10	25 ○授業研究・協議会 理論研修	・授業研究（低学年－生活科）	上之園公子 教授
11	8 ○授業研究・協議会 理論研修	・授業研究（高学年）	住田裕子教授 市教委
12	19 ○交流	・授業づくりについて ・児童アンケート実施（2回目）	
		○学力調査	・江田島市学力調査実施
1	6 ○交流 ○個別研修	・今年度の研究のまとめ	
2		・次年度の研究計画	

4 研究公開の予定について

なし